

令和5年度 第1回学校運営協議会 議事録

静岡県立掛川特別支援学校

1 日 時 令和5年6月23日（金） 午前9時30分から11時30分まで

2 会 場 静岡県立掛川特別支援学校 会議室

3 参加者

○委員

- ・会 長 鴻野 元希 様
- ・副会長 杉山 弘 様
- ・コーディネーター 田辺 エミ 様
- ・委 員 馨 敏郎 様
- ・委 員 大石 徹 様
- ・委 員 中山 善文 様
- ・委 員 山元 薫 様
- *欠席 ・委 員 藤田 節子 様

○学校

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、
肢体不自由教育主任、CSディレクター
教務情報課長 生徒指導課長 防災課長 保健給食課長 研修課長
自立活動課長 体育課長 図書表現課長 地域連携課長 キャリア教育課長

4 内容

(1) 学校運営協議会委員の任命

(2) 開会

(3) 議事

① 校長あいさつ

② 自己紹介

③ 令和5年度学校経営計画

ア 学校経営の重点 イ グランドデザイン ウ 質疑応答

④ 校内コンプライアンス委員会

ア 令和5年度不祥事根絶計画 イ 令和5年度人権教育について ウ 質疑応答

⑤ 意見交換

「地域と共に歩む学校」を目指して

ふれあい活動（ふれ活）

～学校周辺地域のひと・もの・こと を生かした学習～を推進していくために

(4) 学校参観

(5) 記念撮影

(6) 閉会

5 議事録

(1) 校長挨拶

第1回学校運営協議会では、みなさまからの御意見をいただき、学校運営に生かしたいと考え、各分掌課長も出席しております。本日は、たくさんの御意見をいただきしたいと思います。よろしくお願いします。

(2) 自己紹介

(3) 令和5年度学校経営計画について、グランドデザイン（校長）

<目指す学校像>

- ・学校教育目標「元気 笑顔 夢の実現」
- ・目指す児童生徒の姿「自分の良さを生かし、人や社会とつながりながらその能力や可能性を最大限に発揮して、主体的に学び生活する姿」
- ・学校教育目標の「元気 笑顔 夢の実現」について、「元気：主体的、笑顔：対話的、夢の実現：深い学び」と捉え、地域と歩み、豊かな生活ができるように取り組んでいく。また、安全に気を付けて指導と授業づくりに力を注いでいきたい。

<目標具現化の柱>

ア **【安全・安心】** 人権・個性を尊重し、安全・安心な教育環境、学校体制と教育の充実

イ **【授業】** 一人一人の教育的ニーズに応じ、確かな成長・発達を支える授業の充実

ウ **【連携】** 地域とつながり、地域に学び、地域と連携・協働した学校づくりとセンター的機能の充実

- ・学校教育目標具現化の柱をそれぞれの分掌が担う形で経営していく。
アの「安全・安心」は、主に生徒指導課、防災教育課、保健給食課、イの「授業」は、主に研修課、自立活動課、体育課、ウの「連携」は、主に図書表現課、地域連携課、キャリア教育課が担い、教務情報課は ICT の推進を含めて全体を把握していく分掌と位置付け、12年間のつながりがある指導ができるように経営していく。
- ・本校には、小学部、中学部、高等部があり、通学区は掛川市、菊川市、御前崎市である。スクールバスは現在6台運行している。今年度の児童生徒数は278人である。

<本年度の取組>

ア 安全・安心

- ・危機管理体制の整備と改善については、防災意識を高められるよう、様々な災害を想定した避難訓練や起震車体験を計画している。
- ・人権意識の向上のために、人権教育に関する研修の実施、月ごとに人権目標を立てて評価する、丁寧な言葉や態度で接することを徹底していく。道徳の授業を全職員が一人一回は実施する。

イ 授業

- ・専門性を向上させ、授業力を上げるために、個別の教育支援計画、個別の指導計画を保護者と共有する、学習指導要領の内容を踏まえた授業実践や授業改善をする。授業で ICT 機器を活用する。

ウ 連携

- ・センター的機能については、地域の人・もの・ことを活用する「ふれ活」を今年度も実施していく。

子どもも大人もみんなが笑顔で過ごせるように、「一人で悩んでいませんか。いつでも相談させてください。」のポスターを廊下やトイレに掲示し相談支援体制を整備している。いつでも「智子の部屋（校長への相談）」へどうぞと発信している。

グランドデザインのように学校運営協議会と学校とで PDCA サイクルを実施していきたい。

司会（副校長）

「学校経営計画について、委員の皆様より御意見等をお願いします。」

【安心・安全】

- ・ 鴻野委員：業務の見直しに ICT が活用されているのか。家庭へのお便り等の配信はされているのか。アプリの活用の仕方を知りたい。
- ・ 教務情報課長：COCOO というアプリを全家庭が登録済。学校からの連絡やお便りを配信している。既読確認ができるため、確認できなかった家庭には、文書配付も行うことができる状況。
- ・ 副校長：ICT 機器として、今年度電子黒板を4台導入した。画面に直接書き込みができたり、iPad や chromebook をつないだりすることもできる。全職員に周知し、授業で活用し始めている。
- ・ 馨委員：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の会議へ参加しているが、学校職員の参加者が多く、丁寧さを感じる。会議の持ち方ひとつで学校が変わっていく。学校運営協議会への名称変更の説明や人権目標の取り組みなど、当たり前のことを、みんなでシェアしながら着実に進んでいると感じる。
- ・ 大石委員：製造業の会社なので、特に安全には力を注いでおり、月に1回安全パトロールを実施している。マナー化しないための見直しや工夫があったら知りたい。
- ・ 防災教育課長：教員一人一人の管理場所を決め、毎月安全点検を実施している。今年は、防災の視点も加え、物の置き場などもチェック項目に入れた。見直しを年度末に行う。
- ・ 鴻野委員：スクールバスの安全管理について取り組んでいることはあるか。
- ・ 生徒指導課長：置き去り防止装置をスクールバスに設置している。
- ・ 教 頭：本日、使い方の確認を行い7月から全車での運用を開始する。
- ・ 杉山委員：先生方が子どもたちのために取り組んでくれていることはありがたい。先生方はストレスを抱えているのではないか。管理職の「悩みを聞く、共に語り合う」取り組みは素晴らしい。
- ・ 校 長：学部での取り組みを紹介します。
- ・ 小主事：学年主任を窓口、主任会で仕事の重なりなどを情報共有している。話を聞きアドバイスをしている。
- ・ 中主事：縦割りの活動が多いので、担任だけではなく生徒の特性や指導方法を共有している。生徒指導の際は、一人で関わらないように学年で共有している。部主事への相談についても、アナウンスしている。
- ・ 高主事：縦割りの活動が多いので、学年主任中心に全体にかかわることは、部主事、副主事、級外でも共有している。学部会では、学年や生徒の良さを共有する時間を設けている。主任会では、教員の困りごと、良さも共有し、お互いが声を掛け合い多くの目で見えるようにしている。
- ・ 肢体主任：どうしても1対1での対応が多くなってしまっているので、一人で抱え込まないようにするため、クラス、学年、学部で協力を求め、仕事が偏らないように調整したり、学習集団を工夫することで教材研究の時間を確保したりしている。

【授業】

- ・山元委員：体育への取り組みが楽しみ。さすが赤澤校長先生。体育は、小1から高等部にかけてある教科のひとつ。体育の授業をしているけど、体育を教えていないことが多い。動きの系統性を理解した上で準備、動かし方の指導をすると力が付く。静岡県は、体育の時数が多い。心と体を育てることは大切。小1から心と体を作るための学習指導要領に沿った具体的な取り組みを教えて欲しい。
- ・体育課長：小、中、高の年計を見直し、内容を一覧表にして、つながりを確認する予定。各学年での押さえを確認し改善していく。令和6年、7年に掛特版ができるようにしたい。
- ・校長：12年間のつながりがある、体育、図工・美術、音楽について、学習指導要領とのつながりを意識して作ってほしいと考えている。
- ・山元委員：体育で「速く走ろう」という目標に向けた手立てが、「後ろから押す」では手立てになっていない。知的障害の特性を生かした支援ができるように期待している。
- ・自立活動課長：体の使い方についても自立活動の6区分で実態把握をしている。夏季研修として外部専門家を招き感覚統合の研修を予定しているので、研修内容を学校全体へ発信していく。
- ・図書表現課長：図工、美術や音楽も12年間のつながりがあるように、今年度は年間指導計画を見直し、整理していく。体の使い方は、図工、美術にも関わるので、自立活動課と連携していく。
- ・鴻野委員：図書室を充実させていただきたい。蔵書はどのくらいあるのか？
- ・図書表現課長：3,000冊ほどある。徐々に増やしており、掛川市の移動図書館も活用している。
図書室の整理や管理を生徒ができるようにしていきたい。
高等部生徒の読み聞かせ動画を地域へ届けたり校内でも本を介してのつながりを広げたりしていく。
- ・鴻野委員：図書表現課ができたことがすばらしい。ぜひ、本に親しんでほしい。
- ・山元委員：例えば、国語の1段階2の中1の生徒には、どんな本がよいか提案できるような仕組み作りができたり、教師が自腹を切らずに図書室の本で学習ができるように同じ本が何冊か用意されていたりすると、生きる教材になる。
音楽は、目標や共通事項など、学習指導要領を意識した教材提示ができると先生方のヒントになる。
- ・副校長：著作教科書などの教科書も活用したいと考えている。
校内人事を体育や図工、美術の専門性が生かせるように工夫している。
- ・鴻野委員：ぜひ、蔵書1万冊を目指してほしい。
- ・中山委員：学校で始めたバスの置き去り防止装置などの取り組みを、保護者を含めた様々な人に発信してほしい。ただ、広げるときには、ターゲットを決めることも大切。ホームページは自分から一方向への発信だが、TwitterやInstagramからホームページにつなげる方法もある。掛川市として、特別支援学校へリツイートすることで、市民へ周知できるのでは。
- ・副校長：現状の発信方法は、ホームページなので、見やすいトップページにした。県からSNSの利用について通知があったが、まだまだ進んでいない状況。発信については、掛川市さんにも協力をお願いしたい。
- ・田辺委員：専門家の委員の方々の意見がすばらしい。ここで話し合ったことが子どもたちへ生かされることが大切。この会議での話し合いは有効だと思う。

【連携】

- ・キャリア教育課長：教員のつながりとしてキャリアプランマトリックスを活用し、何のために、なぜ行っている授業なのかを考えながら行えるようにしたい。自立支援協議会からの情報としては、生活介護事業所が足りない、ダイレクトBの対象生徒が多いという状況。市町の福祉課と協力していきたい。
- ・地域連携課長：センター的役割として、地域からの研修支援の依頼には、100%対応している。幼保から高等学校まではもちろん、それ以外も対応している。小学部見学は就学前の年中、年長を対象に、中学部見学は小学生と中1中2も対象として期日を設けている。設定日以外でも対応できるように、就学相談や学校見学をしていく。

司会（副校長）「このような経営計画で取り組んでいきます。承認していただけるようであれば、拍手をお願いします。」

（拍手）

「承認してくださり、ありがとうございます。第2回の学校運営協議会で報告できるように取り組んでいきます。」

(4) 校内コンプライアンス委員会

ア 令和5年度不祥事根絶計画（副校長）

別紙参照

イ 令和5年度人権教育について（生徒指導課長）

あたりまえのことを反復連打していく。

別紙人権教育についての内容を第1回職員会議で、全職員で共有した。

ウ 質疑応答

- ・鴻野委員：小学部の運動会でボランティアをしたとき、自傷する児童への職員の対応がすばらしかった。児童は、うまく切り替えて活動できていた。
- ・小主事：次の活動を伝えたり、級外が職員へアドバイスしたりして対応している。一人で抱え込まず、チームで対応することを心掛けている。
- ・副校長：掛特応援隊だよりで、小学部の運動会での様子を紹介している。
- ・山元委員：人権教育について、すばらしい考え方。教師として人権を守るためにOJTの中で見せ合っていくことや、児童生徒が人権意識を高めるために、成功体験はもちろん大切。その前提として安心できる環境で自尊感情を育てることが大事。また、安全・安心に対して、安全意識は高いと感じる。「安心」の意識化、見える化をしてほしい。
- ・生徒指導課長：「安心」の見える化や挨拶をきっかけに自尊感情を育てていけるように取り組んでいく。
- ・中山委員：対児童生徒だけでなく、教職員のストレスを解消できるような取り組みはあるか。
- ・小主事：行事の見直しを学部単位で行い、業務が時間内で終わるように話し合いの場を工夫している。
- ・中山委員：実は言いたいけど言えない場合の駆け込み寺はあるか。
- ・小主事：小学部は女性職員が多く、同性の方が相談しやすいこともあるため、副主事（女性）への相談がある。副主事と二人でタッグを組み対応している状況。
- ・教頭：職員安全衛生委員会から、県の相談窓口の周知をしている。所属内で言いづらいときには、利用してほしいと思っている。
- ・中主事：業務の偏りがなければ見直しをする。一人で指導せず、複数の目で生徒を見ていくこと、教師の気になる言動や態度はその都度声を掛け合うようにしている。
- ・高主事：一人に業務が偏らないようにしている。教師の付き方や生徒との距離感につ

いても、授業アドバイザーや級外へいつでも相談できるようにしている。また、話しやすい人に相談することで、級外につながられる。チーム高等部としてお互い助け合うこと、声を掛け合うことを心掛けている。

- ・ 肢体主任：人員配置や書類の必要性を見直し業務改善を図っている。管理職面談では、職員一人一人と話す時間をもつことができ、本音を聞いた。学部主任とも調整して改善していく。
- ・ 副校長：職員の持ち時間数を明確にし、見える化して均等化するよう意識している。フォーマルなつながりだけでなく、コロナが落ち着いてインフォーマルなつながりも始められるのではと思っている。本日いただいた提言をどう具現化していくか、分掌課長を中心に考えていく。

(5) 意見交換 進行：田辺コーディネーター、大塚 CSD

「地域とともに歩む学校」を目指して

令和5年度のふれあい活動（ふれ活）

～学校周辺地域のひと・もの・こと を生かした学習～を推進していくために

- ・ 校長：地域社会全体の力をお借りし、地域と教育とのつながりで質の高い授業を行えると考える。例えば、レタスやお茶のことは私たち教職員が教えるよりも地域の専門家の方からのほうがより高度な知識を得ることができる。学校を活性化するために、ぜひお力をお貸しいただきたいですし、私たち学校は、管理職だけでなく職員一人一人が自覚をもって児童生徒にかかわっていく。地域とのつながりが好循環を招く。今後10月、2月の会議で循環しながらよりよい学校経営をしていきたい。
- ・ 田辺委員：地域の方たちは、かかわりたい、触れ合いたいという気持ちをもっている反面、お子さんたちへの対応が分からない、ケガをさせてしまったらどうしよう、忙しい先生方の邪魔にならないか、保護者さんたちが不安に思わないかなど、様々な葛藤がある。学校から具体的な希望をいただくことで、安全で安心な状況でどうかかわれるかを考えていきたい。
- ・ 小主事：ふれ活のメインは一日ウォーク。昨年度は30人程度の参加があった。今年度も3グループに分かれて実施する予定。昨年度の粟ヶ岳グループには、2年連続参加してくださった方が、ペースメーカーになってくださり良かった。課題としては、当日初めて会う児童への対応が分からず、不安なままスタートしてしまうところ。
- ・ 中主事：中学部の3年間を掛けて地域を知る活動に取り組んでいる。お茶や掛川城以外にも名所や特産品、伝統など幅を広げたいと考えているので情報があるとありがたい。
- ・ 高主事：正門前の花壇でフラワーエンジェルさん（地域ボランティアの方）を中心に花づくりの技術を学ばせていただいている。昨年度はセルフウメキさんを紹介してくださり、地域へ発信する良い機会をいただいた。販売会でも直接生徒に声を掛けてくださり、発信の必要性を感じている。生徒中心に発信したいので、どんな方法があるのか知りたい。
- ・ 肢体主任：小、中、高がそれぞれ、サツマイモの苗植えや iPad を使った写真撮影、花壇を介して繰り返し触れ合うことで、顔を覚えて声を掛けてくださったり、手が届くようにプランターを傾けてくださったりしている。毎月第3金曜日の交流活動もスタートした。
- ・ 副校長：グランドデザインのように、小・中・高が地域とつながり学校目標の達成ができるようにしていく。

- ・馨委員：小学部の一泊ウォークのときには、集まれる人だけでも一カ月くらい前に参観の機会があると、お互いに話したり対応の説明を受けたりできる。
- ・大石委員：ダイバーシティを重視している。企業として、工場見学や出前授業など対応できる。
- ・中山委員：中学部の調べ学習先については、市役所は多くの情報を持っているので、目的が分かればさまざまな部署と連携したり、新聞等のメディアにつないだりできる。
- ・馨委員：例えば、キウイフルーツカントリーの平野さん一家は協力的。観光型農場を経営しており、体を動かす体験や遠足の目的地としてもおすすめ。
- ・鴻野委員：掛川の俳句大会にもぜひ応募してほしい。出前授業もできる。一人で作れなくても大人と共に学習するなどして、ぜひ出品してほしい。
- ・杉山委員：南郷地区まちづくり協議会として視察にいつている。市は多くの情報を持っているので、頼るとよい。
- ・山元委員：「人・もの・こと」ではなく、「地域のもの・ひと・こと」とあえて文言の順番をかえたのか。意図はあるのか。→意図はない。(大塚CSD)
ふれ活をとおして成長したことをどう子どもに返すのか。子どもたちがどう発言するかだけでも年度末が楽しみ。
- ・大塚CSD：地域の人材バンクを生かし、積極的に活動していきたい。

司会（副校長）「今回いただいた提言に対しての取り組みや児童生徒のあらわれを、第2回の学校運営協議会で報告できるように取り組んでいきます。」